

| | | |
|-------------------|---|---|
| 重点目標 | 【ハンドサインと話型でつなげる授業】 （学習指導） | P |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度県学習状況調査で、4年生は全3教科中2教科で、5年生は全4教科で、6年生は全4教科中3教科で全県平均を上回った。4年理科、6年算数が若干下回った。 「主体的で対話的な学び」の具現化について、質問紙調査で「話し合う活動への取り組み」肯定的回答は92.5%、「話し合う活動を通して考えの広がり深まり」肯定的回答は86.3%。 | |
| 具体的な目標 | <ul style="list-style-type: none"> 県学習状況調査の平均通過率を全学年県平均を上回るようにする。 質問紙調査で「自分の考えを发表する機会がある」「話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答90%以上を目指す。 | |
| 目標達成のための方策 | <ul style="list-style-type: none"> 教師も学び合う校内研究推進体制の確立。 研究キーワード「聞き合い」「参加」に設定。 「比較・検討」に係る教科横断的な指導の充実。 少人数指導を積極的に取り入れ、一人一人を生かす指導を充実。 諸調査・テスト等を効果的に活用し、学習の定着状況を把握。 「自学のやり方」を提示し、家庭学習で基礎的・基本的を定着。 | |
| 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援と生徒指導の視点から、全員「参加」の授業づくりを目指し、ハンドサインと話型でつなぐ授業で校内研究を推進した。 ・授業改善に向け、8学級で5回の授業研究会を実施。事後研究会では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から児童の姿で授業を検証した。また、2月までに「授業を見合う会」を10回実施した。 ・算数科を中心に比較・検討する学び合いの場面を重視し、ねらい達成のための学習活動や発問の仕方などについて研修を深めた。 ○教師一人一人の研修カードを作成し、自身の学びを可視化した。 ○5年生は72名を3学級編成として少人数学習を実施、他学年はT T指導で学力向上に努めた。 | |
| 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・県学習状況調査（R5年12月実施） <ul style="list-style-type: none"> 4年生 国語71.1[-2.8] 社会 なし 算数69.8[+2.3] 理科83.6[+5.1] 5年生 国語63.3[-0.4] 社会80.9[+6.9] 算数73.6[+2.8] 理科69.2[+0.4] 6年生 国語82.6[+7.7] 社会80.2[+6.6] 算数72.5[+3.8] 理科87.2[+3.4] ・主体的で対話的な学びの具現（質問紙調査の肯定的回答） <ul style="list-style-type: none"> 「話し合う活動に進んで取り組んでいる」 <ul style="list-style-type: none"> 4年生88.9%[-2.8] 5年生95.6%[+4.3] 6年生98.4%[+7.5] 「話し合う活動を通して自分の考えを広げたり深めたりしている」 <ul style="list-style-type: none"> 4年生81.5%[-2.8] 5年生82.6%[-3.9] 6年生98.4%[+10.8] | |

| | | | |
|------|---|---|---|
| 自己評価 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会の事後研究会を、ワークショップ形式で教師自身が学び合うことを意識して、改善案を共有し、授業改善を継続した。 ・「授業を見合う会」により、多様な手立てを学び合い、初期層教員の授業力の向上や指導技術の継承ができた。 ・「聞き合おう」を合い言葉に、教師と児童が能動的に聞き合うことで、より深い学ぶのあり方が実感できた。 ・学年に応じた少人数学習とTT指導によって、児童の学習意欲の向上と、教師の丁寧な見取りができた。 ・主体的で深い学び合いを充実させるために、教師のコーディネート力の向上に努めたい。 | C |
|------|---|---|---|

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

| | | | |
|------------|---|---|---|
| 学校関係者評価と意見 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の調査結果の数値が、概ね県平均を上回り良好であるが、一部の教科では伸びしろがあると考えられる。 ・ハンドサインや話型の活用については、今後伸ばしていく余地がある。 ・話合いには人間関係が大切であり、学年が上がるに従って肯定割合が増えていることはよい。 | C |
|------------|---|---|---|

| | | |
|-----------------------|---|---|
| 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合うことで学びが深まることを実感できるように、教師のコーディネート力を高める研修を進める。 ・児童の学びに向かう意識を確認し、「分かる・できる授業」がより充実するように、学年での改善、全校での改善を積み重ねていく。 | A |
|-----------------------|---|---|